

役柄と自分を同一視

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

▲NHK大河ドラマ「功名が辻」(2006年)に山内三笠の家来として最終回まで出演した▼

▲現実の自分と同一視するべ

ら役柄に入れ込んでいた▼

助監督は別の部屋にいる監督

にインカムで伝えてくれたんで

すけど、「ごめんさい。やっぱり

そのときの監督がプライベート

トの話もしたことがなかった僕

を、3年にわたるスペシャルド

ラマ「坂の上の雲」(第3部、

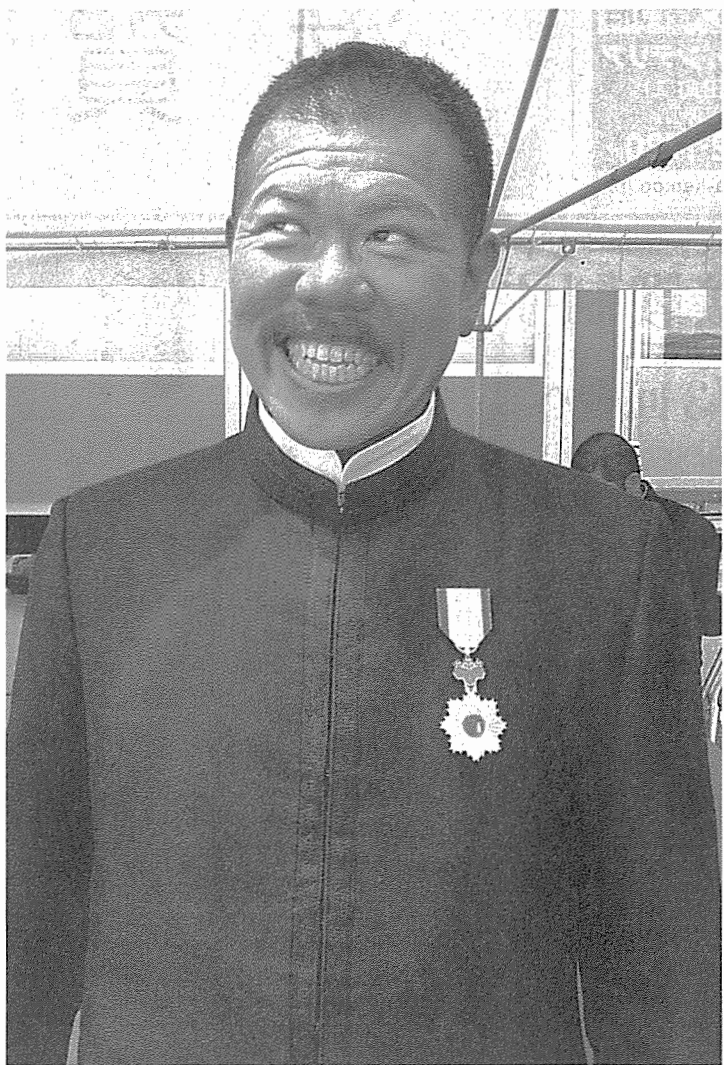
11年)で起用してくださったん

です。

1年間の中で、悔しさのあまり熱くなって、セットから出て行ったこともあるんですよ。僕は武田鉄矢さんが演じる家臣頭五藤吉兵衛の側近で、そのかぶとをいつも持っている役柄だったんですけど、三重の城を攻め

討ち取られる場面の撮影に、助監督が「何々さんお願いしましよ。助監督に言ったんですよ。俺らは、半年以上、武田さんに尽くしてる。顔なんか映らなくてもいいで、影だけでもええから置いてもらえませんか」って。

山内家臣として自分の立ち位置を新たに自覚するため、絶対に必要なシーンだと思ったんです。



NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」で、戦艦三笠の砲術長の安保清種役を演じたドンペイさん

＝いずれも本人提供

大河ドラマの監督も一目

「功名が辻」の台本。一話ごとに分かれている



「あんな大作、縁ないわって思ってたなら、事務所から「坂の上の雲」の話がありまして」って連絡があった。「うそやろ。どんなところ?」って聞いたら、戦艦三笠の砲術長の安保清種役でした。渡哲也さんが連合艦隊司令長官の東郷平八郎、本木雅弘さんが連合艦隊参謀の秋山真之を演じ、砲術長は指示があったら全艦に伝える役のようですよ。どうしていい役柄で呼んでもらったのかって聞いたら、演出を務めるその監督が「これ、ドンペイちゃんじゃないと俺やらないからね」と言ってくれたそうなんです。

金沢でロケがあって、実寸大の三笠が作られました。僕は「敵艦、何千(び)」とか、筒状の伝声管に向かって声を張り上げ

るのが仕事です。テストを含めて5回ほど声を上げるんです。監督が「無理しないで」って言うんですけど、僕は絶対、手を抜かへん。最初のテストから全力でガンガンやってたんですけど、2週間すると声が出ない日があって。東京に戻って、声が飛んでいると力所をアフレコで音声を入れることになったんです。

監督が「ドンペイさん、あれほど飲まないでって言ったのに毎日飲んでるから、声出ないじゃない」って、スタッフを笑わせるんです。僕も「そうでしたよねえ」って話を合わせて、1人で部屋に入って吹き込んだんです。

でも、マクシジャーに聞いたら、監督は僕がいなくなってしまうから「ドンペイちゃんは一日も飲まないよ。現場で見ている、ドンペイちゃんやなと思った」って。なんてうれいこと。僕からしたら、「功名が辻」の出演場面で熱くなったのも、本気で芝居を考えてるからって理解してくれたんじゃないかって思うんです。【編集局・大澤重人】

＝つづく、水曜掲載

「力量が醸し出した味」

ドンペイさんがフェイスブックで発 それを乗り越えながら生き残っていく信じ、コメントに返事を書いています。たくましさや優しさや哀しみが一体に「功名が辻」の助平役について、「あ なった凄絶な戦国の侍の笑顔。ドンペイの笑顔なかなかできません。現代人と イさんの力量が醸し出した味です!」は違う、主君と共に常に死地に臨み、 との温かい感想が寄せられました。